

2022年度 第2回 定例会 式次第

WEB開催

2022年7月24日（日） 10時 ～ 13時

9時55分 司会 挨拶

9時56分 会長 挨拶

10時 開 演

「 演 題 」

「 様々な欠損歯列に対するインプラント治療戦略 」

「 講 師 」

クリスタル歯科院長 金成 雅彦 先生

12時30分 質疑応答

北日本口腔インプラント研究会

< 略 歴 >

平成 3年 九州歯科大学卒
平成 3年 山口市の鳥羽歯科医院勤務
平成 7年 防府市にてクリスタル歯科開業
平成23年 日大松戸歯学部にて歯学博士取得

< 所 属 >

IPOI学会指導医
日本口腔インプラント学会専門医
日本臨床歯周病学会認定医
顎咬合学会認定医
米国歯周病学会（AAP）会員
米国インプラント学会（AO）会員
日本審美歯科協会会員
OJ副会長
JUC副会長
京セラメディカルインストラクター



様々な欠損歯列に対するインプラント治療戦略

クリスタル歯科院長

金成 雅彦

欠損歯列に対する補綴処置としては、可徹性義歯、架橋義歯、インプラント補綴、もしくはそれらのコンビネーションが存在する。それぞれの処置方法において、その適応症と利点欠点があるが、最終的には患者の主訴に可能な限り近づけることが、術者の施術すべき治療方法と考えている。

特にインプラント補綴に関しては、自費診療のみに限られているために、患者の経済的な背景も含めたナラティブな対処をすることも臨床的には重要な項目になる。

今回、様々な欠損歯列に対する処置方法を提示させていただくが、そもそも欠損歯列になった原因の解明とその対処も重要である。また、歯を失うことになった後には、様々な口腔内の環境の変化も見受けられる。歯の挺出や傾斜などは多く遭遇するだろう。インプラント埋入の術前・術後処置としての矯正治療および歯周形成外科なども臨床的には非常に重要な項目と言える。矯正治療を行う上で必要なことの一つとして、固定源の設定である。天然歯に固定源を求めればその歯は移動してしまう。固定源を移動させたくない場合、もしくは固定源と成りうる歯が欠損している場合などは、治療計画の立案の際に苦慮してしまうであろう。

近年ではそのような症例に対しTAD（Temporary anchorage device）と呼称されるミニインプラントの応用が有効と考えている。また、多数歯欠損においては、患者のQOLを維持するためにトランジショナルインプラントの活用が有効と考えている。

今回の講演において、当院における様々な症例を提示させていただき、それらの有効性に関して述べてみたいと思う。

MEMO